

搬送ベルト知っとく情報

(14年/03月)No.122

発行：吉野ゴム工業(株)

企画 中平

～ベルトコンベヤ設備をお持ちの皆様にお役に立つ情報をお届けします～

◆YOSHINO ワンポイント情報!◆

【ネジ式テークアップ】

コンベヤベルトは、適切な張力を与えることで駆動プーリとベルト間に摩擦力が発生し、ベルトが走行します。張力が足りない場合は、駆動部でスリップが発生しベルトは動きません。



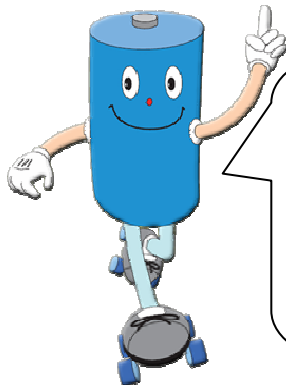
ベルトに与える張力は、重錐（オートテンション）で常に一定に与えることが理想ですが、短機長（30m前後）のコンベヤでは装置が大きくなる重錐式は採用しにくく、『テークアップ形軸受けユニット』をテールプーリに装備し、工具を用いて手でネジを巻きあげるネジ式が一般的でしょう。

ネジ式のテークアップ形軸受けに、山形・溝形・軽溝形鋼製などのフレームがセットになった『ストレッチャーユニット(NTN商標)』が、各軸受けメーカーでラインナップされており、コンベヤフレームにユニットを載せるだけで組立が容易です。

ネジ式テークアップ装置でネジを巻き上げる場合（テンション調整）は、左右均等にネジを巻き上げることが重要です。

ベルトの片寄りを調整するなどの目的で、片側だけネジを巻き上げて左右の軸受けの位置が極端に非対称の状態（斜め）にすることは避けてください。軸受け間の距離が左右で極端に違うまま放置すると、セットボルトで軸固定している部位に傷を付けたり、ボルトに緩みが発生することがあります。セットボルトに緩みが発生すると、軸受けから軸が外れたり、軸受けやシャフトを破損したりする恐れがあります。

ベルトの片寄り調整は、左右均等にテンションの効いた状態でベルトが正しく走行するよう調整することが重要です。詳しくは知っとく情報のバックナンバーでご確認ください。



冬の凍結に強い
エコロンローラ！
ベルトとローラが凍りつく
現象を防止します。

テンション調整する場合、『運転しながら』調整するので、周囲の回転体、ベルトに触れないように安全柵を設けるなど『安全確保』が重要です。

Yoshino
吉野ゴム工業株式会社
YOSHINO RUBBER INDUSTRIAL CO.,LTD.

●大阪Tel>06-6461-5751 ▲東京Tel>03-3883-7159

◆名古屋Tel>052-602-0090 ★九州Tel>093-551-0775

■URL><http://www.yoshino-rubber.co.jp>

※搬送ベルトのことならお気軽にご相談下さいませ。当社は ISO9001:2008 全社認証取得致しております。